

## ■韓国の子どもと読書

李(在) お会いできて嬉しいです。お話は討論の中で申し上げたいと思います。本日はよろしくお願いします。

曹 アンニョンハセヨ。韓日児童文学討論会にお招きいただきありがとうございます。今までこうした討論を行う機会がありませんでしたが、討論ができますことを嬉しく思っています。

仲村 早速ですが、まず韓国の児童文学や子ども読書に関する質問です。

真鍋 今の韓国の子どもたちは、どのような作品傾向を好みますか？ 人気の韓国現代児童文学を教えてください。

曹 子どもたちというのは市場経済のなかにゆだねておくと、子ども漫画シリーズの『コミックメイブルストーリー』のように興味本位になります。これがゲームになるとオンライン『メイブルストーリー』になって、キャラクターを操ります。

父母は勉強に役立つ本をすすめる傾向があります。ですが、意識のある父母や教師たちは文学性のある本を読ませたがる傾向があります。子どもの本に対する多様な要求の中で、こうしたいくつかの傾向が共存しているといえます。

真鍋 日本では活字離れが続いていますが、韓国ではどうですか？

曹 韓国でも読書を嫌がる子どもたちは多いです。インターネット、ゲーム、テレビなどが主要な影響ですが、映像時代の子どもたち引きつけるだけの作品が多くないというのも原因です。

真鍋 韓国の受験勉強は、とても厳しいと聞いています。子どもたちは、どのように本と作品に接しているのですか？

曹 韓国では読書を大学入試に反映させなければならぬという政府の政策があります。そのため入試のために本を読まなければならないという雰囲気広がっています。ですから子どもたちが好きで読書をするよりは、他律的に読書をしなければならぬ状況があります。学習としての読書が、本来の読書から子どもたちを遠ざけているという認識と、そういう形でも読ませれば良いのだという肯定的認識とが、これも共存しています。

幼児や低学年の子どもたちに読み聞かせる場は増えていきます。高学年の子どもたちの場合、学習と関連した本を読書塾(学園)を通して、つまりプログラムによって読書する子どもたちが多いです。一カ月いくらかのお金を出せば一週間に一冊ずつ読むようにプログラム化されていて家に配達されるという商業的システムもあり、読書指導師が自宅訪問して本を読んでやったり、その本に関する学習をするというプログラムもたくさんあります。

仲村 これまで日本スタイルの読書運動もよく研究されて